

## 2015年度東北大学 大学教員準備プログラム (Tohoku U. PFFP) 新任教員プログラム(Tohoku U. NFP)成果報告会・修了証授与式 参加報告(2016.3.23)

---

小林雄志 (熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻 特任助教)

2016年3月23日(水)に東北大学川内北キャンパス 川北合同研究棟 101 CAHE ラウンジにおいて、2015年度東北大学 大学教員準備プログラム (Tohoku U. PFFP) 新任教員プログラム(Tohoku U. NFP)成果報告会・修了証授与式が開催された。

まずはじめに、羽田貴史 大学教育支援センター長より、「ワークバランスのある大学教員生活を過ごすにはどうしたらよいか」といったテーマについて、羽田先生のこれまでの経験に基づくアドバイスを頂くことが出来た。研究・教育・大学運営のバランスは数年から10年単位で考えること、ドツポにはまらないために研究を通してトータルなビジョンを創ること、余剰時間を作り出すこと等、これから大学教員としてキャリアを積んでいく我々にとって非常に貴重な内容であった。

次に、今野 文子 講師より今年度のプログラムの概要について、これまでの PFFP・NFP の発展の過程を交えて説明が行われた。今年度の新たな試みとして、学外にも参加者募集を行ったこと、ショートコースを新設したこと、PFFP と NFP が同じ海外大学へ研修に行ったこと、海外研修に加えて国内視察(立命館大学・同志社大学)を行ったことなどの説明があった。

その後、PFFP・NFP 参加者によるプログラム成果報告が各10分間(7分報告+3分質疑応答)といった形で行われた。参加者の感想として、「プログラムに参加したことにより授業設計を意識するようになった」、「授業は学生中心に考えるべきという意識が芽生えた」といったもののほか、相談できる仲間や先達教員と交流できたことを述べるものが多くいたことが特に印象的であった。また、今年から行われた国内視察に触れるものも多く、同志社大学のラーニングコモンズなどの学生を支援する施設やこれらの活用を広めるための取り組みについて興味を持つ参加者が多かった様子であった。

このように本プログラムは、内容の改良が毎年行われ、完成度の高いものになってきており、参加者や修了者、先達教員のネットワークも広がりつつあることなどから、今後もその動向を注目していくべき FD・プレ FD プログラムであると考えられる。